



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ハス (久宝寺公園・大阪市内)

トピックス：「森林・林業技術視察プログラム」の取組について
(森林技術・支援センター)

ニュース：広島北部森林管理署、福井森林管理署、鳥取森林管理署

花草木：ノウゼンカズラ

我が署のスタッフ：山口森林管理事務所

森林事務所等紹介：山崎森林事務所 (兵庫森林管理署)

国有林最前線：兵庫森林管理署

「森林・林業技術視察プログラム」の取組について

【森林技術・支援センター】

森林技術・支援センターは、全国7つの森林管理局に1箇所ずつ設置され、森林・林業に関する技術開発とその成果を民有林への普及につなげる業務を中心に担っています。

近畿中国森林管理局の森林技術・支援センターは、岡山県北西部にある新見市に所在し、これまで列状間伐試験、コンテナ苗植栽試験、早生樹（センダン、コウヨウザン）植栽試験、里山広葉樹資源の有効活用と天然更新技術に関する試験、UAV（ドローン）や地上レーザ計測などICT機器活用による森林資源の効率的な森林管理など様々な技術の実証に取り組んできており、これらの成果の民有林の森林・林業関係者への普及を図っています。

森林・林業技術視察プログラムの概要

未来を拓く技術の森

森林・林業技術視察プログラム







令和7年4月

林野庁 近畿中国森林管理局
森林技術・支援センター

Forest Technology and Support Center

項目	メニュー	視察ポイント	視察時間
植栽	コンテナ苗 (一貫作業と下刈り)	・コンテナ苗の生育状況、植栽時期別の生育状況 ・下刈り省略林分での生育状況	40分
	早生樹センダン	・センダンの生育状況 ・施肥の有無による成長の相違	30分
	早生樹コウヨウザン	・コウヨウザンの生育状況、スギとの成長比較 ・ノウサギ被害の状況や被害対策、萌芽による再生状況	30分
	エリートツリー (ヒノキ)	・エリートツリーの初期成長 ・コンテナ苗植栽時期による成長の相違	30分
	低密度植栽	・植栽本数別の生育状況 ・保育コスト分析や林冠閉鎖時期の予測結果等	30分
間伐	列状間伐	・初めての列状間伐から30年以上経過した林分の状況 ・無間伐林分等との比較	60分
針広混交林化 複層林施業	針広混交林化 (列状間伐の実施)	・列状間伐実施後の高木性広葉樹の状況 ・3伐6残の幅広の列状間伐の状況	60分
	針広混交林化 (天然広葉樹の活用)	・天然広葉樹の活用によるヒノキ植栽本数の低減 ・地拵え、下刈り等の省略	30分
	複層林施業 (帯状伐採)	・下木の成育状況 ・上下二段林との違い	30分
その他	里山広葉樹林の 活用・再生	・里山林の整備、活用手法 ・天然更新（天然下種更新、萌芽更新）の状況	60分
	スマート林業	・地上レーザスキャナによる高精度な森林情報の収集 ・ドローンで撮影した写真を用いた林分析	60分
	ノウサギN型誘引捕獲	・ノウサギN型誘引捕獲の仕組み、設置方法 ・その他の捕獲方法	15分

その方法の一つとして、当センターにおいて視察できる技術開発の取組内容を分かり易くまとめた「森林・林業技術視察プログラム（以下「プログラム」という。）」を作成し、広く情報発信に努め、民有林の森林・林業関係者の方々に視察していただいているところです。

このプログラムには、コンテナ苗、早生樹、列状間伐、スマート林業など12のメニューがあり、それぞれのメニューの視察ポイントや視察に必要な所用時間などを記載することで、参加者の方々の関心に合った取組を効率的に組み合わせてご覧いただけるようにしています。

また、「森林施業コース」、「低コスト育林コース」、「バ



いりがいやま
列状間伐箇所の視察（入開山国有林）

ラエティコース」など複数メニューを組み合わせ、視察時間が半日または全日の4つのお勧めコースを準備し、森林・林業初心者の方々でも気軽に参加いただけるよう工夫も行っていきます。

令和2年度から取組を開始し、直近3年間の視察実績は、合計27回、延べ視察人数は約360名となっており、地方自治体や林業事業者等の方々に対して低コスト施業技術に関する普及を図っています。

令和7年度から、プログラムのさらなる充実のため、水源涵養機能の発揮を重視する森林において推進している帯状伐採による複層林施業地と植栽本数を減らして再生林の低コスト化を図る低密度植栽の試験地を視察箇所に追加しました。

低密度植栽試験地(加茂山^{かもやま}国有林)は、これまで1ヘクタール当たり3,000本植栽するのが一般的なところ、1ヘクタール当たり1,100本、1,600本、2,500本植栽する区域を設けて成長等を調査しています。植栽後10年を経過していますが、どの植栽密度でも順調に成長しています。また、1ヘクタール3,000本植栽と比較して、例えば1,600本植栽は3割のコスト削減となりました。

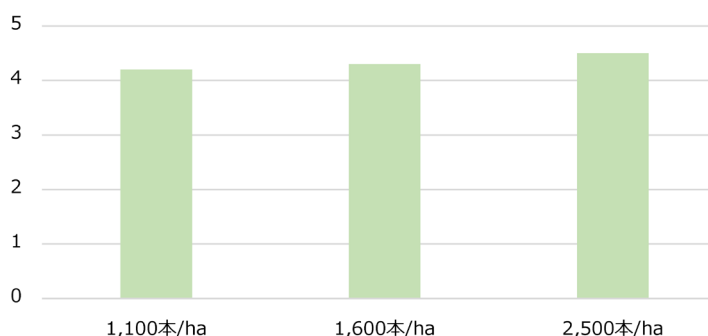
この他、現在、下草の成長に負けない大苗植栽試験や過酷な夏の下刈りを避けて、冬に下刈りを行う試験などを実施中で、成果がまとまり次第視察地に追加していく予定です。

当センターでは引き続き、このプログラムを活用しながら、地方公共団体の職員、森林組合、林業事業者、地域林業の担い手として期待される学生など民有林の森林・林業関係者の方々の技術的支援を積極的に行ってまいりますので、現地視察等のご要望がございましたら、下記URLに記載の「お問合せ先」よりお気軽にお問い合わせください。

森林・林業技術視察プログラムに関する情報

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/shisatsu_program.html

8年生時の平均樹高(m)



1,600本/ha植栽区(加茂山^{かもやま}国有林)



柿原山国有林クリーン活動を実施しました。

【広島北部森林管理署】

広島北部森林管理署では、令和7年7月17日（木）に広島県安芸高田市吉田町に所在する柿原山国有林かきはらやまにおいて、安芸高田市と共催で令和7年度柿原山国有林クリーン活動を実施しました。



ゴミを回収する参加者

当署では、これまでも地元自治体等と連携し国有林野内にある不法投棄箇所の清掃活動を実施しており、今年度は公募により応募いただいた参加者及び当署職員の総勢35名が、空き缶、空き瓶などの家庭ゴミからタイヤなどの大型ゴミまで林内へ不法投棄されたゴミの回収を行いました。

当日は猛暑日で気温が高く、暑さとの闘いとなりましたが、熱中症対策を十分に行った上で作業を行い、約200kgのゴミを回収しました。回収したゴミは、安芸高田市の処理施設へ持ち込み、処理をしていただきました。

広島北部森林管理署では、今後も地元自治体や地域の方々と連携しながら、不法投棄撲滅に向けて取り組ままいります。



ゴミ回収後の記念撮影

「森と湖に親しむ旬間[※]」イベントに出展しました。

【福井森林管理署】

福井森林管理署では、令和7年7月21日（月）に福井県大野市の真名川ダムまながわで開催された「真名川ダム見学会」に出展をしました。当署では、出展した各ブースが1問ずつ出題するクイズラリーや国有林に関する業務についてのパネルで森林・林業のPRを行ったほか、署オリジナルの木製スマートボールや木工クラフトといった体験コーナーのブースを出展しました。



真名川ダム

当日の大野市は35℃を越える猛暑日でしたが、普段立ち入ることのできないダム内部を散策する見学ツアーが行われたことから、ダム内部の涼を求める多くの参加者でにぎわいました。



スマートボール体験の様子

また、夏休み中ということもあり、署の出展したブースのスマートボールや木工クラフトは、県内外から訪れた多くの親子連れの来場者に人気がありました。木工クラフトでは30分以上も作品作りに取り組むお子さんもいました。

福井森林管理署では、今後も「森と湖に親しむ旬間」のイベントに出展してまいります。

※国土交通省及び林野庁では、森林や湖に親しむことで心身をリフレッシュさせながら、国民の皆さんに森林やダムの果たす役割について理解を深めていただく目的で昭和62年度より、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定め、各地でイベントを開催しています。

沖ノ山国有林において、現地検討会を開催しました。

【鳥取森林管理署】

鳥取森林管理署では、令和7年7月31日(木)、おきのやま沖ノ山国有林(鳥取県智頭町)において、林業における低コスト化に向けた取り組みの一環として地元の請負事業体に参加していただき、総勢24名で現地検討会を開催しました。



一貫作業システムの概要説明の様子

はじめに当署より、一貫作業システムの実績や概要説明を行った後、当事業地の請負事業者である有限会社清水木材より各工程で工夫している点や注意している点等の説明を受け、作業の効率化を図る取り組みについて意見交換を行いました。

続いて、山元土場へ移動し、木材市場である石谷林業株式会社智頭支店より、市場の現状や材の売れ筋、木材需要の動向等について説明を受けた後、参加者は3班に分かれ、丸太の採材方法等について検討を行いました。

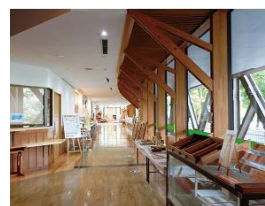
その後、当署より、椋積みされた丸太の材積の計測について、近年開発が進んでいる「丸太検知アプリ」と、従来人の手で行っている「計測」をそれぞれ実施して、材積や人工数(外業と内業の人員数と作業時間)の結果を比較した説明し、ICTの活用による計測業務の効率化・省力化の取り組みを紹介しました。

参加者の皆様には、今回の検討会で得られた知見を林業における効率化や丸太の有利販売につなげていただければ幸いです。

鳥取森林管理署では、引き続き現地検討会等を通じて、林業のコスト削減の普及に取り組んでまいります。

お知らせ

森林のギャラリー (局庁舎1階)



【技術普及課】

○現在の展示は、令和7年9月3日(水)～9月26日(金)岡山県新見市、近畿地方環境事務所、岡山県西粟倉村が行っています。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【三重森林管理署】

○大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団について(開催日：令和7年10月3日(金))

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/mie/250801.html>



【技術普及課】

○「水都おおさか森林(もり)の市2025」を開催します。

【開催日】令和7年10月26日(日)10時～

【テーマ】「行こう!万博の次は森林(もり)の市だ!」

【場所】毛馬桜之宮公園・桜ノ宮合同庁舎

(JR大阪環状線「桜ノ宮」駅西口から徒歩5分)

最新情報は下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



【奈良森林管理事務所】

○第14回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントの開催について

(開催日：令和7年10月30日(木))

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/nara/250818.html>



花草木

【ノウゼンカズラ】

ノウゼンカズラ（凌霄花、学名：Campsis grandiflora）は夏に咲く、鮮やかなオレンジや赤い花が特徴のつる性植物です。

中国原産で、夏の強い陽射しに映えるその姿は南国の風景を彷彿とさせます。7～9月に咲き、ラッパのような花の形がユニークです。

この植物は生命力が強く、壁やフェンスに絡みつくので庭のアクセントとして人気があります。ただし、育てる際は茎が外壁を傷める可能性があるので注意が必要です。



大阪市内の公園で咲いていたノウゼンカズラの花

花言葉は「名声」「栄光」です。

我が署のスタッフ 山口森林管理事務所 新岡 連太郎（しんおか れんたろう）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

今年度から業務グループで資源活用業務を担当しています。日々の業務としては主に生産事業に係る事務手続き（保安林・形質変更協議、測量図面の作成等）、市況調査報告、機械管理などを行っています。生産事業を進めていく上で監督職員、現場代理人、所内担当者間での連携がとても大切だということを日々実感しています。まだまだ今年度中に習得すべき業務もたくさんありますので、日々の業務の中から上司や先輩の知識や技術の一つでも多く学べるように取り組んでいます。

【職場の雰囲気は？】

山口所は一人あたり作業スペースが広く、優しく相談に乗ってくれる上司・同僚が多いためのびのびと業務に取り組める環境が整っています。また体調を崩して休んだ日もこまめに連絡をくださり、食材などを届けてくださる職員の方もおられるなど本当に優しい方が多い職場です。

【林野庁の魅力は？】

国有林というフィールドで勤務先ごとに多様な観点で森林・林業の業務に携われることだと思います。また勤務地ごとに変わる森林・自然の様相を仕事をしながら見ることができるのは魅力的だと思います。



システム販売 検知の様子（物見国有林）

森林事務所等紹介

山崎森林事務所（兵庫森林管理署）

首席森林官 福本 真也（ふくもと しんや）

山崎森林事務所は兵庫県の西部、岡山県・鳥取県との県境に位置する宍粟市しそうしに所在しています。

管轄区域は、宍粟市の一部（旧山崎町・旧千種町）、姫路市の一部（旧安富町）及び佐用町に所在する国有林6団地約3,155ha、公有林野等官行造林契約地22団地約657haを管理しています。

兵庫森林管理署は兵庫県全域を管轄区域としていますが、県内の森林面積に占める国有林野は約2万9千haで、県内森林面積の約5%にすぎません。なお、管理面積の約半分は宍粟市とその周辺市町に所在しています。

当森林事務所は、国有林野事業の中でも木材生産・林業経営に位置づけられる昔の言葉で表現すれば「営林」事業を盛んに行っており、本年度は、河原山かわらやま国有林（宍粟市）を中心に素材生産事業をはじめ立木販売、造林事業（新植、下刈りなど）を実施しています。

具体的には、森林整備事業として新植約12ha、下刈り約22ha、除伐約5ha、保育間伐（素材生産を含む）約72haを実施しており、素材生産事業では、伐採した木材のうち約3,800m³を搬出し、宍粟市内の製材工場や木材市場で販売することにより、資源の有効活用や地元の産業振興にも取り組んでいます。

また、兵庫県北西部はニホンジカの生息密度が高く、ニホンジカによるスギ・ヒノキの植栽木への食害や皮剥被害が激しいことから、被害防止に向け防護柵の設置や委託による捕獲事業にも取り組んでいます。

今後も、地域住民の方々や林業関係者の方々のご理解とご協力を得るなかで、事業を円滑に進めていきたいと考えています。



伐木集造材の作業



集積土場からトラックへ木材の積込



造林事業までが終わった作業現地



防護柵の設置状況



くくり罠にかかったニホンジカ

シリーズ『国有林最前線！』

県内の市町や自治会等と取り組む三ホンジカ対策

大型排水管を用いた残渣処理施設を設置 兵庫森林管理署

兵庫県では、ニホンジカの個体数増加で農林業被害額が急増し、県の集計によれば、平成初期は年間約7億円の被害（シカ年間捕獲数：約5千頭）が発生していましたが、平成6年度以降メスジカが狩猟対象となったほか狩猟報奨金制度の創設などで、令和5年度の被害は約1億7千万円（シカ年間捕獲数：約4万3千頭）まで減少しています。

当署も、平成24年度から県内の市町や自治会等と協定を締結し、ワナの無償貸出や防護柵設置個所を提供するなど連携捕獲等を行い、令和元年度から発注するシカ捕獲委託事業と合わせて年間150頭前後（R4=159、R5=162、R6=124頭）を捕獲しています。

しかしながら、依然、県内のシカ生息数は多い状況が続いています。

この様な状況の中、令和6年度に都市部に近い、たつの市に所在する新宮滝谷国有林内に、捕獲したシカをより安全に効率よく埋設処理できる大型排水管を用いた残渣処理施設を試行的に設置しました。



令和6年12月18日現地検討会



残渣処理施設の内部

近畿中国森林管理局管内で大型排水管を用いた埋設処理施設は、試行的に令和3年度に和歌山森林管理署が設置した以降、三重森林管理署も設置しています。

これまで当署のシカ捕獲委託事業では、地面に穴を掘って埋設処理していたので埋設場所が限られ、腐臭が漂い、クマ等呼び寄せてしまうなど安全性にも課題がありました。

このため、大型排水管を用いた埋設は継続使用することでコストも低減することから、当署においては、より安全かつ効率よく使用できるよう工夫した形で設置しました。具体的には、投入口から腐臭が洩れないよう鉄製の箱枠を被せ、箱枠の蓋を三つ折り形状にして取付強度を高め、蓋が容易に壊れないようにしました。



大型排水管（埋設前、サイズ確認）



大型排水管（外観から見た構造）



大型排水管完成時の外観

また、箱枠の蓋と軽トラックの荷台を同じ高さにし、捕獲したシカの投入作業の負担軽減を図っています。